

北陸で生まれたモノの良さを見つめ直そう!

北冬陸
人と自然の見聞録



WINTER
2013 No.39

定価 740円

自然人



特集 | 北陸には消費したいモノがいっぱい

新地産地消

想像力が働くローカルなつながり

ピコ水力発電で地域おこし

三拍子そろった薪エネルギー

能登榊ブランドで国産シェアの拡大を

県産材遊具による「木育」の取り組み

地元で獲れたおいしいジビエをブランドに

地域の食材を使う楽しみを知る「食育」

山菜食文化を次の世代へ

ご当地グルメから選ぶこの店、この料理

特別企画

河北潟の輝く季節

自然人に会う

鳥には鳥で。鳥害に挑む

プロフェッショナルに会う

悠久の大地の物語

珠洲の珪藻土



吸水は何のため？

チョウの集団吸水一

NPOウェットランド中池見
池上 博

夏の暑い盛り、湿った路上で吸水するチョウをよく見かける。好んで水場に集まるチョウは多いが、

メスが吸水しているのを見かけるのは非常にまれで、吸水行動はほとんどオスである。仲間が吸水していると、そこを通りかかったオスがそのすぐ隣で吸水を始めるので、邪魔するものがいなければ、時間が経つにつれて集団が大きくなることもある。

不思議なのは、車に轢かれて死んでいる仲間でも気にせず集まってくるのである。

よく見かける集団吸水は、黒いアゲハの仲間、キアゲハ、アオスジアゲハ、あるいはキチョウなど近い種で群れをつくることが多い。

種の異なるチョウ、昼行性の蛾、ハエなどが集まっている場合は、吸水というよりも糞、とくに尿などに

集まってくるのが主で、この場合はアンモニア摂取が目的で繁殖に有利な行動と考えられている。

チョウは冷血動物なのでわれわれ人間と違って自分で体温を調節することができない。

オスたちは子孫繁栄の為にメスを探してあちこちと飛び回るので、暑い夏は体が火照っている。そこで、吸水しながら、

お尻から排水して、水冷式で体を冷やしているわけである。吸水中のチョウをよく観察するとお尻から水がポタポタと

落ちているのがわかる。

フィールドでこういう光景に遭遇すると、「チョウたちも暑いんだな」と、彼らのエコロジカルな知性^{*}に驚かされる。

^{*}エコロジカルな知性：環境とのかかわりの中で実現する頭の良さ

いけがみひろし／福井県敦賀市在住。1940年生まれ。

敦賀市の中池見湿地が環境省自然環境局生物多様性センターの「コア・サイト」に指定され、2005年より調査に参加しチョウの調査を担当。調査は2014年に10年目を迎える。



グラフィックデザイナー
イラスト&レイアウト 本間勝美